



しょうらん がっく 翔鸞学区



学区の概要

翔鸞学区は、北は芦山寺通、南は一条通、東は千本通、西は天神川にわたる区域で、この地域はかつて広漠たる原野で「七野」（北野・平野・柏野・紫野・蓮台野 など）の一つとして知られた野趣豊かな地でした。

天曆元年（947）菅原道真をまつる北野天満宮が創建されました。中世に建立された大報恩寺（千本釈迦堂）は隣接した位置にあります。

天正15年（1587）豊臣秀吉による北野大茶湯、あるいは出雲お国のかぶき踊をはじめとする諸芸上演の場として一つの華を咲かせました。

明治2年、この地域37カ町は上京第三番組に編成され、同12年第六組、明治25年に第五組に改められ、昭和4年以降、翔鸞学区に改められました。

小学校は明治2年9月1日大文字町（元誓願寺通七本松東入）に建設され、明治40年に現在の西柳町に移転されました。

翔鸞の由来は、平安京の応天門の回廊の一端にそびえていた「翔鸞楼」にちなんで名付けられたものです。



北野天満宮（三光門）

豊臣秀吉による北野大茶会が開催された際、七軒の茶屋が作られ、現在の上七軒になります。日本最古の花街として古くから言い伝えられています。また現在の上七軒通は今出川の本通で北野天満宮の参道になります。嵐電の北野駅は上京署の西側が終着駅であり、今の新今出川通が整備され現在の白梅町に変更されました。

